

■令和7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・現代文 出題傾向と学習アドバイス

【出題傾向】

〈問題文〉

〔過去3年間の出典〕（ ）内は出題分野

2023

- A 桑子敏雄『何のための「教養」か』（社会・科学） 安藤宏『「私」をつくる』（文化）
B 品川哲彦『倫理学入門』（社会・哲学）
D・E・ブラウン／鈴木光太郎・中村潔訳『ヒューマン・ユニヴァーサルズ』（科学・文化）

2024

- A 白井恭弘『ことばの力学』（文化・社会） 香室結美『流行』（文化・社会）
B 中村雄二郎『術語集Ⅱ』（文化・社会） 鈴木貴之『人工知能に関する2つの見方』（科学・哲学）

2025

- A 戸谷洋志『「親ガチャ」と自己責任論』（社会・文化） D.L.エヴェレット／松浦俊輔訳『言語の起源』（文化・言語）
B 中澤渉『日本の公教育』（社会・教育） 波頭亮『文学部の逆襲』（社会・科学）
C 田中彰吾『自己と他者 身体のパースペクティブから』（心理・哲学） 岡西政典『生物を分けると世界が分かる』（科学・文化）

問題文は、おおむね評論二題の出題。社会・文化論が中心ですが、具体的なテーマとしては様々な話題が出題されますので、〈出題されそうな文章を読んでおく〉といった学習は（ほとんど当たりそうになく）効果的とはいえません。内容的にも、〈見慣れた話題〉〈一般的通念や常識をなぞるような論〉よりも〈新しい問題意識に基づく話題を取り上げた文章〉〈常識的通念をくつがえす新しい視点による論〉が多いので、〈見慣れない話題の文章でも、その場で筆者の叙述をきちんと追って、「この人はこういう意見なのか」というふうに理解していく〉正統的な読解力を養う必要があります。

分量的には、A・B・Cともに二題合計で4500～7500字くらい。私立大学としては記述設問の量が多いこともあり、かなり手応えのある分量だといえます。しかし、文章自体は、論理構造が明快で、論の運びにも無理のないものが多く、文章読解の方法をきちんと身につければ読み解けるはずです。

〈設問〉

〔過去3年間の設問形式〕 2題合計

2023

- A 空欄補充6 傍線部説明4 論旨把握1 内容合致2 漢字・語意3
- B 空欄補充6 傍線部説明5 論旨把握1 ポイント要約1 指示語1 内容合致1 漢字1

2024

- A 空欄補充4 傍線部説明6 論旨把握1 内容合致2 漢字2
- B 空欄補充3 脱文挿入1 傍線部説明4 内容合致2 漢字2

2025

- A 空欄補充5 脱文挿入1 傍線部説明3 論旨把握3 内容合致1 漢字・語意2
- B 空欄補充4 傍線部説明3 論旨把握2 内容合致2 漢字・語意4
- C 空欄補充4 傍線部説明5 内容合致1 漢字・語意3

設問形式は、空欄補充・傍線部説明・内容合致・漢字を中心とした知識設問という、私立大学としては標準的な形。国語に関する知識と文章読解力、部分の読解と全体の把握といった力をバランスよく問う設問構成で、現代文の力が総合的に試される出題だといえます。難易度も標準的で、奇をてらった問いや、解答不能なほどに難解な問いは出題されません。ただし、一つの大問中に、比較的取り組みやすい設問とやや手ごわい設問とが含まれていますので、〈制限時間内に合格ラインの得点を確保する〉ためには、迷わされそうな設問は後回しにし、確実に正解できる設問を取りこぼしのないように確実におさえる、といった時間配分の工夫も必要です。

漢字は読み・書きともに出題されます。漢字練習帳の〈頻出漢字〉の項に掲げられているものを中心に練習しておきましょう。また、漢字の「部首」を問う設問や、語意、文法、文学史などが問われる場合もあります。基本的なものについては、「国語便覧」や国語知識に関する問題集などで確認しておきたいところです。漢字をはじめ国語常識の設問では、まれに難しいものが出題される場合もありますが、そうしたものはほとんどの人が正解できない（つまり、その設問では得点差がつかない）のであまり気にせず、頻出のものをきちんと身につけておくことが大切です。

[過去3年間の解答形式] 2題合計

- 2023A 選択式9 抜き出し式1 記述式3 (200字・70字・2字) 文学史1 漢字2
B 選択式7 抜き出し式3 記述式5 (60字・指定なし・30字×3・10字・100字) 漢字1
- 2024A 選択式8 抜き出し式3 記述式2 (200字・80字) 漢字2
B 選択式5 抜き出し式2 記述式3 (120字・30字・60字) 漢字2
- 2025A 選択式8 抜き出し式3 記述式3 (100字・50字・90字) 漢字1
B 選択式6 抜き出し式2 記述式5 (80字・80字・70字・25字・指定なし) 漢字2
C 選択式5 抜き出し式2 記述式4 (60字・70字・35字・60字) 漢字2

最大の特徴は、記述設問の分量がかなり多い点です。とはいえ、設問の作り方としては、問題文の正確な理解に基づいて、傍線部・設問文から設問要求を的確におさえ、それに沿って本文中の表現をまとめるという、オーソドックスな記述説明設問が多いので、記述力養成の練習をきちんと積んだ人は確実に得点を見込むことができます。私立大学の受験生には記述設問が苦手な人が少なくないので、その練習をきちんと積んでおくことが、他の受験生に差をつけるポイントになるでしょう。また近年では、100字・200字といった長字数の記述の出題が増えて来ています。これについては、本文の広い範囲や全体を要約する練習を重ねることが効果的です。

【学習アドバイス】

〈基礎となる語彙力を固める〉

先に見たように評論を中心とした出題なので、いわゆる〈評論用語〉の語彙力を強化することが第一です。〈普遍—特殊〉〈絶対—相対〉〈アイデンティティ（自己同一性）〉〈メディア（媒介となるもの全般）〉といった語は、〈何となくわかっているようで、じつは正確な意味が理解できていない〉人も少なくないものと思われます。いわゆる〈現代文キー・ワード集〉のような、漢語やカタカナ語の抽象語を集めた参考書で、正確な語意を理解しておくようにしましょう。

漢字・四字熟語といった国語に関する知識も、設問で問われるだけでなく、文章読解の基礎となる力にもなるので、基礎的なものはしっかり身につけておきたいところです。

〈文章読解の方法を身につける〉

出題される文章のジャンルはさまざまで、多種多様な話題・論点の文章が出題され、また一般的通念をくつがえすような論旨の文章も少なくありません。したがって、いわゆる〈入試頻出〉テーマの文章の内容を覚えておいて〈見たことのある文章だから理解できる〉といったことに期待するような学習のしかたは、空振りに終わる可能性が高いといえます。論説文として正統的な書き方の文章が出題されていますので、文章読解の方法をきちんと身につけ、〈その場で筆者の叙述を追ってきちんと理解する〉力をつちかひましょう。

具体的には、参考書や問題集などの評論文を、〈同内容の繰り返し〉〈対比関係〉を意識しつつ、〈ここからここまではAという話の繰り返し〉〈ここからここまではBという話の繰り返し〉で、これは先のAと対比されている〉といったぐあいに、論旨を整理しながら読む練習を繰り返すことです。はじめのうちはゆっくり時間をかけて読むとよいでしょう（各部分の論旨を20～30字程度でメモしながら読み進めるなどすれば、記述解答の力をつける予備練習にもなります）。そのような練習を重ねて、文章の骨格をつかみながら読むやり方に慣れていけば、次第に読むスピードも上がってくるものです。

〈設問解答の練習をする〉

設問は、基本的には私立大学の標準的な形式なので、私大型の標準レベルの問題集で設問解答の演習を重ねていけばよいでしょう。

設問解答に当たっても、問題文の読解の段階でつかんでおいた〈同内容の繰り返し〉〈対比関係〉などが第一の手がかりになります。〈この設問箇所ですべて述べられていることは、内容的に前のこの部分の繰り返しだから、そこがヒントになる〉とか、〈この選択肢は、設問箇所の内容とは対比されている（反対側の）内容だから×〉といった形で解答できる設問が多い、ということです。

例えば、同じ空欄補充設問でも、空欄前後の意味上のつながりがヒントになっている〈語彙力型〉の問いと、問題文の他の箇所との同内容・対比関係などがヒントになっている〈読解力型〉の問いがあるので、意識しながら練習を重ねるとよいでしょう。傍線部説明の場合には、まず傍線部・設問文から〈何について答えるのか〉をしっかりとつかみ、そのことについて説明している叙述を本文中できちんと確認する、という解答手順を反復練習しましょう。長い選択肢については、全体としての方向性でまず判断し、それでも解答がしぼりきれない場合には、選択肢中のある部分（要素）に誤りがしかけられていないか、といった目でチェックし直す、という姿勢も持ちたいところです。

記述設問は、きちんと準備した人としらない人とで大きく差がつくところなので、標準的なレベルの問題集で練習を重ねましょう。多くの場合、問題文読解の段階で整理しておいた〈各部分の論旨の中心点〉をもとに答える設問になっていますので、①まず傍線部・設問文から〈これとこれとこれについて問われている〉というふうに、要求されている要素を的確に把握し、②それぞれについて、本文のどの部分でどのように説明されていたか、を確認して、③必要な解答要素の見当をつけ（あるいは簡単にメモし）た上で、字数内にまとめる、という練習を繰り返しましょう。

〈過去問演習で仕上げる〉

出題形式は一定なので、過去問が最良の演習問題となります。直前期には、以上で述べたようなことに注意しながら、本番同様に時間をはかって過去問を解くことで、最後の仕上げをしていきましょう。

■令和7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・古文 出題傾向と学習アドバイス

【出題傾向】

中古、中世の日記、随筆、物語、説話などを中心に出题しています。2025年度は中古の物語『夜の寝覚』と中世の説話『宇治拾遺物語』からの出題で、その前は、『更級日記』『宇治拾遺物語』『徒然草』『伊勢物語』などから出題しています。素材となる文章は、基本知識の習熟度を確認する設問や、理由説明・内容説明・表現説明などの応用力を問うやや難易度の高い設問を作れる箇所が含まれているかどうかを考慮して選んでいます。また、受験生の人間・社会や古典への関心を測れるような興味深い素材を選んでいます。全体としては受験生に適切な難易度と判断されるレベルの文章を選んでいます。設問を付す箇所は、語彙・語法に関して基本的なものから難易度の高いものまで含まれるように配慮してあります。

設問については、読解の要となる箇所を外さず、多角的に受験生の学力を測れるように設けてあります。記述式の現代語訳の問題または記述式の説明型の問題（内容説明・心情説明・理由説明など）が最低一題は出題されます。その他、主体判定・人物判定、空所補充、文法識別、文学史もしばしば出題されます。また、和歌や、和歌から派生した文学形式である連歌に関する問題を多く出題しています。今後も注意してほしい分野です。

【学習アドバイス】

付け焼き刃では対応できない設問が多いので、普段からきちんとした学習習慣を身につけて下さい。特に、①現代語訳を書く練習、②文脈から内容を推理する練習、③理由や心情をまとめる練習などを積むことが大切です。

現代語訳の問題への対策としては、普段からきちんと書くようにすることです。それも、なんとなく文脈から意味を推測するのではなく、重要古語はもちろん、副詞の呼応、敬語、付属語などにも配慮して、一語一語現代語に置き換えるよう心掛けて下さい。それが、文法識別問題などへの対策にもなり、読解力の向上にもつながります。

説明型の問題への対策としては、本文の記述に即して傍線部の内容や理由を説明させられることが多いので、過去問などで練習するのがよいでしょう。

空所補充の問題は、文脈を読み取る力、語彙力の充実を目指しましょう。

文学史に関しては、普段の学習の中で触れた有名作品の作者・時代・ジャンルをおさえておくことです。選択肢には、受験生が普通は見かけないような作品も含まれているかもしれませんが、有名作品が分かっているれば答えが出るように問題を作っているはずで

和歌についても普段からきちんとした方法論にしたがって読む練習をしておいた方がよいでしょう。和歌が詠まれた状況をおさえ、句切れを探して和歌の構造をつかんだ上で、きちんと現代語訳するというのが基本です。難しく考え過ぎる必要はありません。

■令和 7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・日本史 出題傾向と学習アドバイス

【出題傾向】

出題形式は、3年連続して大問が4題、問題数が40問で、変化はありません。論述問題の出題はなく、2025年は記述が5割強、記号選択が4割強、24年は記述が5割強、記号選択が4割強、23年は記述が6割、記号選択が4割、だったので、記述と記号選択の比率は過去3年間大きな変化は見られません。また、文を使った正誤判定問題は2025年が7問、24年が6問で、23年が12問、22年度が5問、21年が7問で、23年だけが例外的に出題数が多く、それ以外の年度では5～7問と大きな変動は見られません。他方、文を使った年代整序問題の出題はなく、24年が1問、23年が0問、22年度が2問、21年度は0問だったので、隔年で出題されていることになります。また、2022年と21年に出題のあった歴史用語だけを使った年代整序問題も、23年以降は出題されていません。年代整序問題は大学入試日本史の定番であり、来年度以降出題されることを想定した準備をする必要があるでしょう。

出題内容では、2025年には2024年度に出題された、史料を使った出題がありませんでした。24年度には教科書には掲載されていない「石井・ランシング協定」の史料を使った出題がありましたが、本学では過去にも「大政奉還」、「政体書」などの教科書に掲載されていない史料を使った出題があります。次年度がどうなるかはわかりませんが、教科書に掲載されている史料の学習に加えて、未見史料対策としては、一つ一つの歴史的事実を正確に理解しておくことが必要です。

過去3年間の出題時期および分野については、以下の表のとおりです。

		2025 年度	2024 年度	2023 年度
I	原始・古代	社会・外交・文化	社会・政治・文化	社会
II	中世	政治・外交・文化	政治・文化	外交・政治・文化
III	近世	政治・社会・経済・文化	出題なし	経済・社会・政治・文化
III	近代		文化・政治・社会	
IV	近代・現代	政治・文化・社会	外交・政治	政治・経済・社会・外交

出題時期は原始から近現代までで、2025年は2017年以来出題のなかった現代からの出題がありました（ただし、0.5問の出題です）。志望者が心がけなければならないのは、バランスのとれた学習です。学習していない時期・分野があると、得点が伸び悩む危険性が高まります。

また、2025年のすべての大問で文化から出題されており、ほかの私立大学の入試問題と比べたときに、文化の割合が非常に高いのが本学の最大の特徴です。文化の学習は特に入念に行う必要があります。文化のなかでも、特に気をつけたいのは、受験生の学習が手薄になりがちな近代・現代です。2025年のIVは与謝野晶子の作品を掲載した『明星』、プロレタリア文学の代表作である『蟹工船』の作者である小林多喜二、24年のIIIは、幕府の洋学教授機関である「蕃書調所」、『西国立志編』の翻訳者である中村正直、『民約訳解』の著者である中江兆民など、設問の多くが文化史からの出題でした。22

年は、明治期に「神道は祭天の古俗」を発表して弾圧された久米邦武、昭和戦前期に記紀批判の研究業績が不敬とされて弾圧された津田左右吉が出題され、21年には、新劇と新派劇、新国劇など近代の演劇における紛らわしい用語の区別を求める出題がありました。このように、近代の文化の出題が明らかに多いという傾向が見られます。

【学習アドバイス】

【出題傾向】で分析した出題傾向をふまえ、本学の志望者は以下で掲げる受験対策をとって下さい。

学習に使用する教科書は、山川出版社『詳説日本史探究』です。解説でも指摘したように、本学の正誤判定問題のなかには、この教科書の記述をそのまま利用した選択肢があります。ただ、教科書の本文だけが学習対象ではありません。欄外の注や史料・図版の解説なども熟読する必要があります。

論述問題対策を行う必要はありませんが、記述問題の比率が6割もあり、その大部分が字数指定されているということは、本学は志望者に歴史用語を正確な漢字で書けるようにしてくることを要求しています。誤字の有無だけでライバルと想定以上の得点差がつくことも少なくありません。歴史用語を正確な漢字で書けるよう練習を積むのは必須です。

史料を使った問題が出題される可能性はありますが、使用される史料は教科書に掲載されているものが多いので、これらを史料集の現代語訳や解説と併読しながら学習をすれば、対応が可能です。教科書に掲載されていない史料の場合、設問もヒントにしながら、何に関する史料であるのかを読み取ったうえで解答にのぞむ必要があります。

本学の入試問題には出題時期・分野に偏りが見られないのですから、志望者はバランスのとれた学習を心がけなければなりません。学習されていない時期・分野があると、思わぬ失点をする危険性が高まります。そして、全ての時代を通じて文化からの出題の比率が高いことをふまえれば、絶対に手を抜いてはならないのは文化だということです。問われている用語は「重箱の隅をつつく」マニアックなものはほとんど見当たらず、基本的なものが大部分を占めています。政治・外交などをしっかりと学習するのは当然のことですが、文化にもそれと同等のエネルギーを傾けてください。

また、2025年は旧課程履修者に不利とならないように配慮して、歴史総合からの出題はありませんでしたが、次年度からは歴史総合を絡めた出題が予想されるので、その準備も周到に行ってください。

以上のような受験対策を行い日本史で着実に得点を重ね、合格を勝ち取ってください。

■令和7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・世界史 出題傾向と学習アドバイス

【出題傾向】

2025年度は大問数が5題、設問数が50問でした。2024年度も2023年度も大問数が5題、設問数が50問でしたから、ここ数年、設問数に大きな変動はありません。試験時間が60分ですから大問1題に10分程度、見直しに10分程度くらいの大まかな時間配分をあらかじめ考えておくといよいでしょう。ただし、設問の方法や内容によっては時間がかかるものもありますから、あくまでも目安としておいて下さい。

設問の出題形式は多様です。まず解答方法が記述式とマーク式に分かれています。記述式は全体の約半数（2025年度は23問）で、空欄補充形式と下線部に関する短答形式では主に歴史用語や年号を解答させており、2025年度は論述形式（文章で説明する）での解答はありませんでした。記述式の出題では、漢字表記での誤りで失点をすることもあるので、普段から手を動かして字を書く訓練をしておくことが必要でしょう。マーク式の設問では語句選択問題（複数の語句の組合せというパターンも含めて2025年度は16問出題）と文章の正誤判断問題（2025年度は11問出題）が中心です。文章の正誤判断問題では、2文の正誤をそれぞれ判断する問題も出題されました。2023年度以降、正誤判断の出題が徐々に減少しています。正誤判断問題では正確な知識を活用することが必要ですから、漠然とした知識の暗記だけでは対応できません。

出題される時代と地域も幅広いです。時代については、古代から戦後に到るまで出題されています。特に2025年度は戦後史（第二次世界大戦後）の比重が高めでした。先史時代については出題されませんでした。2023年度には出題されています。地域については、2025年度はヨーロッパ史が多く、アジア史からの出題は少なく、特に中国を含む東アジアからはほとんど出題されていません。一方で大問となったアフリカ史からは例年よりも多く出題されています。2025年度の出題地域には偏りがありましたが、2024年度は満遍なく出題されているので、全地域を網羅する学習が必要でしょう。出題分野は政治史が中心ですが、社会経済史からの出題もあります。特筆すべきは文化史からの出題でしょう。2025年度も10%程度は文化史からの出題です。暗記に頼りがちな分野で、また学習を後回しにしていまいがちですが、対策をしておく必要があります。

難易度については、重箱の隅をつつくような詳細な用語を問うてくることはありません。設問となっているのは基本的な用語がほとんどです。ただし戦後史やアフリカ史、または文化史など、2025年度は学習がおろそかになりそうな分野からの出題が多くを占めたため難しく感じるかもしれません。時代と地域を網羅した正確な知識を身につけておくことが必要です。

大問ごとのテーマはⅠが「ルワンダを中心としたアフリカ史」、Ⅱは「地域統合」、Ⅲは「戦争の原因」、Ⅳは「黒海周辺史」、Ⅴは「核兵器の歴史」でした。多彩なテーマの問題文であり、またⅠでは学習院女子大学とルワンダとの関わりをさりげなく盛り込むなど、単なる入試問題で終わらないような工夫もみられます。実際の試験の時には全体を読む時間がないかもしれませんが、過去問研究をするときなどには勉強にもなりますから全体を読んでみるとよいでしょう。なお2024年度・2023年度のテーマは以下の通りです。

・2024 年度

- I. コシヨウ・トウガラシの歴史
- II. 朝鮮半島の歴史
- III. ヨーロッパにおける戦争観
- IV. イギリス・フランスと植民地
- V. スイスのジュネーヴ

・2023 年度

- I. 砂糖の歴史
- II. 韓国の世界遺産
- III. クロアチアの歴史
- IV. モーツァルト
- V. ジョージ=オーウェル

【学習アドバイス】

「5W1H1R」という言葉を知っていますか？「When（いつ）, Where（どこで）, Who（誰が）, Why（なぜ）, What（何を）, How（どのように）, 行いその Result（結果）どうなったのか」を意味しています。世界史学習の際に意識して欲しいことでもあります。歴史的事項を言葉として丸暗記するのではなく、物語として連続性のあるものとして理解して欲しいと思います。そのときに、ついおろそかにしてしまいがちなのが「Where」の分野です。地域の名称は知っているも、周辺地域との関係や地理的な特徴が把握されていないことが多くなります。少なくとも世界史の勉強をする際には資料集や地図帳を手元に開いて確認できるようにしておきましょう。2025 年度には地図問題が出題されたわけではありませんが、問題として出題されていないからといって地図をおろそかにしないで下さい。

世界史は人間の営みですから、因果関係に基づいて古い時代から現在につながっています。そこでまずは教科書などを利用して通史を理解しましょう。その際には先述のように、どの地域のことなのかを意識して下さい。「理解する」とは、他人に説明することができるというレベルをめざしてください。通史の理解を進めながら、心がけて欲しいことは知識のアウトプットです。学習というと知識のインプットを重視する傾向がありますが、得られた知識を活用できなければ合格点をとることはできません。市販の問題集などを利用して問題演習をくり返して下さい。全ての問題をくり返さなくても構わないので、できなかった問題・設問がなくなる状態を目指しましょう。

以上は世界史全般の学習方法ですので、ここからは本学の傾向に即して検討していきましょう。本学の世界史入試は 60 分の試験時間で大問が 5 題出題され、しかもそれぞれのリード文が一定の長さを持っています。解答数も 50 個と少なくありません。限られた時間で、いかに効率よく、そして正確に解答できるようにすることが必要になります。そのためにまず必要なのは文章を読解する力です。空欄補充形式の問題が多いので、文脈を読み取り空欄の前後から解答を想定しなければいけません。また文章の正誤判断問題も時間をかけてしまいがちですから、素早く文意を読み取り、判断する力を養うことが必要です。対応策としては同レベルの正誤判断問題をくり返すことを勧めます。その際には単に文章が正しいか誤っているかを「当てる」のではなく、特に誤文については、どの部分が誤っているのかを説明できるようにしまし

よう。おおむね異なる歴史用語を用いたり、肯定形を否定形にするなど文意を逆にしたりすることで誤文が作られることが多いことも、知っておくと問題を解くときに有利になるでしょう。

時代・地域・分野については満遍なく出題されている傾向をもっていますので、ヤマをはらずに全ての範囲を網羅して学習しましょう。それでも頻出で得点差が出やすい分野として戦後史を挙げることができます。2025年度も多くの設問が戦後史から出題されました。我々の生活している現在に直結している時代であり、時事的な要素も強くあります。時事問題への対応は、普段から新聞などを利用して情報を集めるとよいでしょう。映像は視覚的な効果がありますが、文章で読むことで先述の読解力の訓練にもつながります。受験勉強だけを意識した日々を送ることは閉塞感を生みますが、一方で余暇も受験勉強や大学での勉強につながると意識すれば罪悪感も減るでしょう。

合否を分けるポイントは皆ができる設問で点を落とさないことです。基本を徹底的にくり返してケアレスミスを避けて下さい。その上で、ライバルに差をつけるために人が苦手とする分野の知識を増やしていきましょう。具体的には分野では文化史や社会経済史、地域では東南アジアや中央ユーラシア、東ヨーロッパや南アメリカそしてアフリカやオセアニアなど、俗に周辺地域と称される地域です。特に文化史も頻出分野です。手を抜かないようにしましょう。みなさんが満足できる成果を出せるよう祈っています。頑張ってください。

■令和 7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・数学 出題傾向と学習アドバイス

【出題傾向】

本年（2025 年）は大問 4 題の出題でした。

① には小問が 4 題あり、そのうち(1)、(3)、(4)は答のみを答える問題、(2)は途中経過も記す問題です。また、②、③、④ は途中経過も記す問題です。

出題範囲は、数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A（図形の性質、場合の数と確率）・数学B（数列）・数学C（ベクトル）でしたが、実際に出題された分野は次の通りでした。

- ① データの分析（数学Ⅰ）
- ② 指数関数・対数関数（数学Ⅱ）
- ③ 式と証明（恒等式）（数学Ⅱ）
- ④ ベクトル（数学C）

定理や公式を用いるだけで答が得られる問題以外に、表を読む問題・図を書く問題があります。全体的に計算問題が中心ですが、図形の性質に関する問題もあります。

試験時間の 60 分ですべての問題を解くことは可能です。①の(1)、(2)は計算に少し手間がかかりますが、それ以外に時間のかかる部分はありません。各分野の基本事項に基づいた問題が出題されていて、特別な知識が必要となることはありません、また、計算に特別に難しい部分はありません。

各問題については次の通りです。①の(1)、(3)、(4)以外は解答に途中経過もつける問題であり、式変形だけでなく考え方も書いておくとよいでしょう。

1

総務省が公表した実際の2つのデータをもとに、その平均値・中央値や相関係数を求め、散布図をかく問題です。データの整理の分野では、計算しやすいように作られたデータに関して出題が行われることもありますが、本問は値を調整していないデータを用いています。そのような場合、手計算だけですませることは難しいので、計算に関するヒントや誘導が問題文にあり、それを上手に利用することが要点となります。また、計算問題以外に、図や表を利用して数値の読み取りを行うような出題も行われます。平均値・分散・標準偏差や相関係数などの公式を覚えるだけでなく、図や表に関する問題を学習しておくことが大切です。

2

対数関数の応用問題です。対数は、数値の大きさを見積もるときに有効であり、教科書・参考書にはそのような問題も多くありますが、本問は対数で表された関数と方程式の問題です。

(1)は、置き換えにより2次関数の最小値を求める問題となります。最小値だけでなく「いつ最小になるか」も重要であり、答案にはそれについての説明も書いておきます。

(2)は、真数を取り出すと、絶対値記号を含む2次方程式の問題となります。それを解く前に、グラフを使って解の様子を調べてもよいでしょう。本問では、 $y = (x - 2)^2$ のグラフと $y = 8|x + 2|$ のグラフの交点を調べることになります。

3

本問は恒等式を解くだけでしたが、恒等式には色々な応用があり、式の計算に用いることもできます。たとえば、 $f(x)$ を3次式として「 $f(x)$ を $(x + 2)^2$ で割った商を求めよ」という問題では、実際に割り算を行ってもよいのですが、 $f(x) = (x + 2)^2(ax + b)$ とおき、これが恒等式であるとして a, b を求めることもできます。

4

座標平面上の点の軌跡という図形と方程式（数学Ⅱ）の課題を、ベクトル（数学C）を用いて解く流れです。本問はベクトルに対する受験生の理解度を確認するための出題といえるでしょう。なお、図形問題を解くときにベクトルを用いたら簡単であった、ということは多くあります。とくに、立体に関する問題ではベクトルは主役となることも多いので、計算や解答の仕方について十分学習しておくといよいでしょう。

【学習アドバイス】

各分野の基本事項と問題の解法を理解し、計算を確実に行えるようになることが、受験対策の基本です。公式や定理を用いた計算練習を日頃から行うことが大切です。

受験生として学習機会は様々であると思われますが、高校の教科書とそれに沿った問題集での学習で、実力を養うことは十分可能です。ある程度自信がついたら、応用問題にも対応できるよう、発展問題・研究問題に目を通しておきましょう。

2025 年入試では、特定分野に偏らず、高校数学全般から色々な問題が出題されました。出題されなかった分野のうち、「微分法と積分法（数学Ⅱ）、三角比（数学Ⅰ）、三角関数（数学Ⅱ）」は高校数学の主要項目であり、今後の入試で出題されることもあるでしょう。また、「2 次方程式、2 次不等式、2 次関数（以上数学Ⅰ）」は、各分野の計算の基礎となる部分であり、しっかり学習しておく必要があります。また、「場合の数と確率（数学A）、数列（数学B）」は、他の分野とは異なった考え方を行うこともあるため、ついでに勉強しておくといったことができません。学習の定着に時間もかかるので、早めに学習計画を立てるのがよいでしょう。

■令和 7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・英語 出題傾向と学習アドバイス

【出題傾向】

大問番号	項目	内容	小問数
〔Ⅰ〕	読解（文法・語彙・語法も含む）	論説文の読解（マーク式）	10
〔Ⅱ〕	語彙・語法・文法	空所に最適な表現を選択（マーク式）	10
〔Ⅲ〕	読解（文法・語彙・語法も含む）	会話文中の空所を補充（マーク式）	10
〔Ⅳ〕	読解（文法・語彙・語法も含む）	英文中の空所を補充（記述）	10
〔Ⅴ〕	作文	自由英作文（記述）	－

大問〔Ⅰ〕

A・B方式ともに、「文中の語句の意味」「文中の空所を補充するのに妥当なもの」「英文で述べられている内容に一致する（あるいは一致しない）もの」「英文の表題として妥当なもの」などを問う設問が多く、オーソドックスな長文読解問題といえるのではないのでしょうか。

英文のテーマについてですが、A方式は、2023年度は「海外旅行のすすめ」、2024年度は「パンデミック後の中国人の旅行」、2025年度は「イタリアにおけるオーバーツーリズム」で、B方式は、2023年度は「手書きでメモを取ることの効用」、2024年度は「血液型と日本社会への影響」、2025年度は「イギリスの博物館」です。いずれも高校生が容易に理解できる内容といえます。

英文の語数については、A方式は、2023年度は約 690 語、2024年度は約 680 語、2025年度は約 710 語でした。B方式は、2023年度は約 560 語、2024年度は約 640 語、2025年度も約 640 語でした。

大問〔Ⅱ〕

A・B方式ともに、定型句や熟語表現も含めた「語彙・語法の問題」が大きなウェイトを占めています。「文型・時制・助動詞・仮定法・比較・関係詞・接続詞」などといった、いわゆる「純粋な文法問題」はあまり目立ちません。

大問〔Ⅲ〕

2者による会話文中の空所を補充するのに妥当なものが問われます。会話の流れをきちんと捉えることが必要であるのはもちろんですが、「会話に特有な口語表現」に関する知識よりは「文法・語彙・語法」といった英語力のベースとなる部分をみています。

英文の語数については、A方式は、2023年度は約 220 語、2024年度は約 260 語、2025年度は約 260 語です。B方式は、2023年度は約 240 語、2024年度は約 230 語、2025年度は約 240 語です。

大問〔Ⅳ〕

さほど長くはない英文中の空所に入れるべき 1 語を記述するという問題です。英文の内容をよく理解した上で、「文法・語彙・語法」に関する知識も合わせて判断する力が求められます。

英文の語数については、A 方式は、2023 年度は約 160 語、2024 年度も約 160 語、2025 年度は約 140 語です。B 方式は、2023 年度は約 180 語、2024 年度は約 160 語、2025 年度は約 180 語です。

大問〔Ⅴ〕

いわゆる「自由英作文」の問題です。A・B 方式ともに、2017 年度から「60～80 語の英語で書きなさい」となりました。

テーマについては、A 方式は、2023 年度は「小学校のオンライン教育の利点」、2024 年度は「小学校より中学校を好む理由」、2025 年度は「お気に入りの日本の休日やお祭りは何か」で、B 方式は、2023 年度は「これまでに経験した中で最も親切な行為」、2024 年度は「趣味を持つことの恩恵」、2025 年度は「運動をすることの利点」となっています。

【学習アドバイス】

60 分という制限時間はあまり余裕のあるものではありません。手際よく問題をこなしていけないと、どこかで大きな失点を重ねるおそれもあります。そこで、まず大問ごとに要する時間を設定しておくことをお勧めします。学力の個人差や、英文の語数によると思いますが、「大問〔Ⅰ〕は 20 分以上、大問〔Ⅱ〕～〔Ⅳ〕はそれぞれ 7～8 分程度、大問〔Ⅴ〕は 15 分程度」が目安となるのではないのでしょうか。

大問〔Ⅰ〕

基本的には、パラグラフの順番どおりに小問 10 題が設定されているので、パラグラフを 1 つ読むごとにそれに対応する小問をチェックしていくのが正攻法といえます。

具体的な学習法としては、まず「長文の読解に慣れる」という観点からは、センター試験や、共通テストの過去問を、時間を気にせず日々読む練習をしましょう。

もちろん、1 文の意味が正確に読み取れなければ、パラグラフ全体で述べられていることを正しく理解することもできませんから、上に述べた長文読解の練習とは別に、「文法の基本事項を身につけたうえで、英文の構造をできる限り正確に分析し内容を把握する」という、読解のオーソドックスな勉強も継続して下さい。「英文の構造を把握できるようになる」ということは、「英文を作り上げることができるようになる」ということに直結していますから、大問〔Ⅴ〕の自由英作文の問題を解く際にも大きなプラスとなります。文構造の把握に自信が持てない人は、「構文」に重点を置いた市販の参考書を活用すると良いでしょう。

大問〔Ⅱ〕

〔出題傾向〕のところで述べたように、大問〔Ⅱ〕は定型句や熟語表現も含めた「語彙・語法の問題」が大きなウェイトを占めています。極端に難しい表現を問うてはなりませんから、市販の単語集・熟語集で中級レベルまでの語彙と慣用表現をしっかりと身につけるとともに、もちろん読解問題で文法的な知識が問われるわけですから、その対策も兼ねて「文法・語法問題集」も一冊仕上げておくとい良いでしょう。

大問〔Ⅲ〕〔Ⅳ〕

大問〔Ⅱ〕に対応するために勉強したことが、大問〔Ⅲ〕〔Ⅳ〕にも生かされることと思います。

大問〔Ⅴ〕

「自由英作文」の出題があるからといって、無計画にこの種の問題形式にただ取り組むというのは得策ではありません。まず第一歩は、若干たどたどしいものであっても、とにかく文法的に正しい英語が書けるようになることです。そのためには、まず基本的な例文（200～300個程度）を頭に入れ、それに修正を加えながら英文を作り上げていくという練習が必要となります。

自由英作文はあくまで「英語」の試験なので、文法的・構文的に正しい英語が書けているかどうか大きなポイントになります。内容の巧拙よりも、「正しい英語」を書くことが大切です。

皆さんにとって一番問題となるのは、自由英作文は「自学自習」というやり方では限界があるということでしょう。過去問の模範解答例は、英語がそれなりのレベルに達した人が書いたものですから、それを読んだところで、自分が書いた英文がどれくらい正しくどれくらい間違っているのか、あるいは実際に何点くらい取れているものなのかを判断することはまず不可能です。それゆえ「添削も含めた、他人による指導」がどうしても必要となります。学校や予備校等の先生にチェックしてもらうようにするのが最も効果的な勉強法になるでしょう。

■令和 7（2025）年度学習院女子大学一般選抜・英語ライティング

出題傾向と学習アドバイス

（英語コミュニケーション学科のみ）

【出題傾向】

A・B方式ともに、過去3年間（2023～2025）は大問が2題で、Ⅰは「指定された書き出しに続けて少なくとも5語を付け加えることによって、英文を完成させなさい」という記述問題が5題で、Ⅱは「与えられた英文を読んで、以下の問い（英語）に対するあなたの答えを120語から150語の英文で記述しなさい」という問題になっています。

Ⅰでは、文法の知識と語彙力に加えて、構文を把握する力も問われています（たとえば2021年度のB方式では、We apologize for に続く部分の記述が求められていますが、後には謝罪する内容として意味が通る動名詞を書かなければならない、ということを判断する必要があります）。

Ⅱは、「与えられた英文の理解を前提とした自由英作文」です。問われている内容については、A方式は、2023年度は「日本の男女の不平等の主な原因は何だと思えますか。状況を改善するために何ができると思えますか。例と理由を挙げて説明しなさい」、2024年度は「ソーシャルメディアは否定的な影響があるということに賛成しますか」、2025年度は「自動運転の車の利点は何だと思えますか。自動運転の車を利用したいですか。具体例と理由を含めて説明しなさい」で、B方式は、2023年度は「服装を選択する以外に、日常生活のどんな活動が環境に影響を及ぼしますか。環境への良くない影響を減らすために何ができますか。具体例を挙げなさい」、2024年度は「映適マーク（映画倫理機構による適正マーク）は近い将来に映画産業を変えることになると思えますか。映画産業に加えて、日本の他の産業は似たようなひどい労働条件という問題に直面していますか。具体例や理由を使ってあなたの答えを説明しなさい」、2025年度は「将来留学したらどんな技能を習得したいですか。具体例と理由を含めて説明しなさい」です。

【学習アドバイス】

Ⅰに関しては上で述べたように、文法の知識と語彙力に加えて構文を把握する力も問われています。したがって、「文法の基本事項を身につけたうえで、英文の構造をできる限り正確に分析し内容を把握する」という「構文」に重点を置いた勉強を継続していくとともに、市販の単語集・熟語集で中級レベルまでの語彙と慣用表現をしっかりと身につけ、さらに「文法・語法問題集」も一冊仕上げておけば、十分に対応できると思います。

Ⅱに関しては、「英語」の大問〔V〕（自由英作文）で述べたことがそのまま当てはまります。